

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月 4日

協議会名: 生駒市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>生駒交通株式会社</p> <p>■R4.10.1～R5.9.30 コミュニティバス西畑線の暗峠(1)</p>	<p>■R4.10.1～R5.9.30 近畿日本鉄道(株)生駒線 南生駒駅を経由する、南コミュニティセンターせせらぎ～暗峠間の1系統の運行</p>	<p>コミュニティバスの永続的な運行実現のため、以下の対策を実施し、交通不便地域での利用促進につなげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍前と比較した利用者数の推移を踏まえ、沿線自治会と利用者増を目指した協議を行った。</li> <li>・「バス運賃100円DAY」と題して、西畑有里線だけではなく、コミバスを含めた市内路線バスすべてを1乗車100円で乗車可能なイベントを令和5年8月3日～5日に実施し、普段利用しない方にも、利用するきっかけを作る取組みを行った。</li> </ul>	<p>A 計画どおり、事業は適切に実施された。</p>	<p>B 公共交通サービスの提供が無かった地域に、コミュニティバスを運行し、地域住民の利便性や生活交通の確保を図るという目標については、補助事業年度における交通不便地域での利用が1日あたり6.3人(前年度から0.2人減)、系統全体の利用は1日あたり19.0人(前年度から0.9人減)の実績となった。</p> <p>また定量的な目標として、①交通不便地である5つの町で乗降する1日あたりの利用者数が、補助事業年度内4月1日時点での当該5つの町の住民基本台帳人口の合計に占める割合、②補助対象沿線での1日あたりの利用者数が、当該補助対象系統を利用する沿線町区の補助事業年度内4月1日時点での住民基本台帳人口の合計に占める割合、の2つを設定した。①は1.86%(目標1.93%)、②は2.04%(目標2.14%)という結果となった。定量的目標値には至らなかったものの、地域の高齢化が進んでいる中、ほぼ前年並みの利用を維持しており、地域と共に利用促進の取り組みも進めていることから、評価をBとする。</p>	<p>当地区での生活交通の確保や地域の活性化という目的を達成するためにも、コミュニティバスの永続的な運行が求められるところであり、その実現のため、以下のような対策を継続し、交通不便地域での利用促進につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統全体での利用率にも着目し、交通不便地域以外の地域での利用の促進も図っていく。</li> <li>・沿線自治会において、コロナ禍前と比較した利用者数の推移や、日常利用のための利用例を記載したチラシの配布を行い、利用の呼びかけを行う。</li> <li>・市ホームページや広報紙を活用したコミュニティバスの周知</li> <li>・利用するきっかけをつくるイベントの実施</li> </ul>

A: 事業が計画に位置づけられた目標を達成した(見込み)

B: 事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)

C: 事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)